

たとえ小さな力でも

校長 新門 健一

学校の集会室から放課後にジャンベの音が響いてくる時期になりました。7月にある県中学校音楽コンクール「夏の祭典」に出場するためです。先輩方が築いてきた伝統を受け継ぎ、後輩たちに引き継ぐために10名の中学生と指導して下さる徳田ジャンベスクール校長先生・保護者の方々は、暑い中で一生懸命練習に励んでいます。地区の皆様方には、7月16日にある六月燈でお披露目できるのではないかと思います。



長雨の中でも、あじさいを見るとほっとします。

さて、世界最小の鳥と言われる”ハチドリ”（ハチドリの中でも小さなものは体重が2gで体長が6cm程）についてのお話があります。南米のアンデス地方の先住民に伝わるものです。

山火事が起こり逃げまどう動物たちの中、ハチドリだけが自分の小さなくちばしで、水のしずくを一滴ずつ火の上に落とすのです。動物たちはそれを見て

「そんなことをして一体何になるんだ。」と笑います。

ハチドリは、

「私は私にできることをしているだけ。」・・・と

皆さんは、このお話を聞いてどう思われますか。動物たちと同じように考えるのが普通でしょうが、このハチドリのように『小さくても何かの役に立ちたい』と常に前向きに考え、行動する子どもたちの集団に三島小中学校をしていきたいと考えています。みんながこのように考えられるようになれば、島の小さな学校であってもきっと大きな力となり素晴らしい成果を得ることができるのではないのでしょうか。

朝から体力づくりで走る子どもたちも増えてきました。ちょっとしたことでも良いので、子どもたちが切磋琢磨してたくましく伸びていくための支援を今後ともしていただける学校でありたいと思います。

修学旅行に行ってきました。

中学生が6月5日（日）～9日（木）まで、主に福岡・長崎方面を中心に、小学5・6年生が6月15日（水）～18日（土）まで、熊本方面を中心に修学旅行に行ってきました。小学生は天候により、一度延期になっていたため、出発の日少々曇り気味の天気でしたが、それでも笑顔で出発していきました。みんな元気で楽しい修学旅行ができて、それぞれの学校生活の中でのいい思い出ができたようです。修学旅行で学習したことを元にこれからの学校生活も精一杯がんばってくれるものと期待しています。



授業参観、高齢者給食試食会・スポーツ大会



24日（金）に授業参観と高齢者給食試食会とスポーツ大会を実施しました。給食試食会は、昨年からの実施です。普段子供たちが学校で食べている給食を高齢者の方々にも試食していただきました。昔の給食と比べてずいぶん変わっていておいしい、というような感想もありました。

授業参観では、保護者と高齢者の方々に参加していただき、子どもたちもふだん以上に張り切って学習していました。

高齢者スポーツ大会は、子ども達と高齢者の方がチームを組み、楽しくプレーすることができました。ホールインワンすれすれのスーパーショットが飛び出し歓声がわき起こるなど、好天にも恵まれ、大変盛り上がりました。高齢者の方々子ども達にとって、充実したふれ合い活動となりました。



海猿教室

13日（月）に、海上保安庁の巡視船「さつま」の方々による“海猿教室（水上安全教室）”がありました。海でおぼれている人を見かけたときには、どのようにして救助を求めればよいかということや、海でおぼれたときにはどのようにして救助を待てばよいかということについて、実演を交えて具体的にご指導いただきました。海猿の方々の、丁寧な指導により、はじめはほとんどできなかった子どもたちが、服を着たままペットボトルを使ってかなり長い時間水中に浮いていることができるようになりました。また、子どもたちは、この日の訓練から、いざいという時の心がまえをしっかり学んだことと思います。



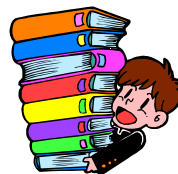
あじさい読書週間

13日（月）～17日（金）は、「あじさい読書週間」でした。例年行っているガジュマルの木の下での緑陰読書は、天候により室内での活動となりましたが、おすすめの本の紹介などにより、普段よりも一段と読書に親しむことができたようです。

県教育委員会では「いつも身近に1冊の本を」のキャッチフレーズのもと、かごしまっ子20分読書活動を推進していますが、今後も子どもたちの読書に対する興味・関心を引き出すような働きかけを工夫していきたいと思っています。

かごしまっ子20分読書運動

- ◎読んでもらおう ◎読んであげよう
- ◎一人で読もう、みんなで読もう
- ◎家族で読もう ◎大人が読もう



お知らせ



県は、ハンセン病問題に対する正しい知識の普及啓発を図るため、19日（日）～25日（土）を「ハンセン病を正しく理解する週間」として設定しています。御承知の通り、これまでハンセン病は怖い病気であるという誤った考えから、様々な偏見・差別や人権侵害を引き起こしてきました。学校では、道徳や学級活動などの時間の中でこの問題に触れながら、偏見や差別をなくすことについて指導しています。

これを機会に、ハンセン病問題により今もなお根強い偏見や差別に苦しむ方々がいらっしやることなど正しく理解し、偏見・差別の解消に努める必要があると考えます。